

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400226		
法人名	有限会社すこやかさん		
事業所名	グループホームすこやかさん		
所在地	千葉県香取市与倉869番地1		
自己評価作成日	平成27年12月1日	評価結果市町村受理日	平成28年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ACOPA		
所在地	我孫子市本町3-7-10		
訪問調査日	平成27年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームでは家族の訪問が多く、面会時には入居者を励ます等、家族も支援下さっている。また家族会として遠足を取り入れているが、家族の参加も多く、家族が訪問しやすく、会話がし易い様な環境づくりに努めている。  
また、デイサービスと併設されている為、運動会や納涼会を合同で実施することで、毎回大いに盛り上がっている。グループホームの看護師に加え併設されているデイサービスにも常勤看護師が数名いる為、緊急時には相談や助言を得て、早めに適切な対応が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

11月で設立14年目を迎えた当ホームは職員の定着率が高く、経験豊富な多くの職員が「自分らしく生きている事を実感できるような支援」を行い、利用者・ご家族の安心・信頼を得ている。面会が多いのも特長で、評価当日も短時間の間に数組のご家族等が来訪され、利用者や職員と和気藹々の会話であった。今年度のアンケート回答率は昨年度と同じ100%、満足度の高い評価である。法人は同一敷地で複数の介護サービスを提供しており、併設のデイサービスの大浴場や特殊浴場の利用、送迎バス利用の毎月の外出支援、看護師のケアなど、複合施設ならではの質の高いサービスが提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は利用者様の住み慣れている地域である事を念頭におき、理念を共有し実現できる様、毎日の申し送りの際確認し、ミーティングにおいてその処遇について話し合い、実践につながる様努力している。	法人理念はホーム内に掲示し、毎日唱和して確認している。理念の実践は月例ミーティングの議題にもあげており、会議にて確認し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が自治会に加入し、運営推進会議では近隣の行政協力委員の参加協力も得られ、ボランティアの訪問も多く、積極的に地域と交流している。	与倉地区自治会に加入、近隣の農家から野菜の差し入れなどもある。小学生の慰問、中学生の職場体験、高校ボランティア部、専門学校の実習、地域ボランティアの公演など、様々な交流がある。若きユニット管理者は高校ボランティア部の体験を契機に福祉の道を選択して入職している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を開催したり、小・中学校の職場体験学習や高校生のボランティアの受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果については、運営推進会議において毎回参加者を変えて報告し、話し合いを行い、会議で出た意見をサービス向上に活かすよう努めている。	定期出席メンバーは市役所高齢者福祉課、区長、民生委員、利用者家族・利用者などで、年間3回の実施予定である。ホームの概況や課題、利用者年間行事、防災情報、外部評価結果などを報告し、意見を頂き、ホーム運営に活かしている。	運営推進会は事前準備、参加者日程調整など苦労も多いと思うが、開催回数を増やし定期開催することを検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市主催のグループホーム連絡会や研修に積極的に出席している。 市の高齢者福祉課とは運営推進会議の出席を含め、常に良い協力関係作りを努めている。	市主催のグループホーム連絡会がありホーム状況を報告し、理解を深めている。それ以外に施設長の参加する福祉関連15社加盟の地域密着型連絡会香取市連絡会があり、市と交渉し認知症型共同生活介護事業所家賃助成金の支援が決定した。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束をしないケアについて内部や外部の研修に参加し、理解し利用者に寄り添いながら取り組んでいる。日中は玄関やテラスの施錠はせず拘束はしていない。	デイサービスと合同の「すこやかさん研修年間計画」があり、「身体拘束しないケア」については県の研修を受講した職員が講師となり実施している。利用者に寄り添うことで拘束しないケア・支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待の防止について内部や外部の研修に参加しており、理解し定期的ミーティングの際や日々の申し送りの際に確認し合いケアの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護についての内部・外部研修に進んで参加し、家族からも質問があれば説明している。以前は成年後見人制度を利用されている方も居た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者や家族に施設内を見学していただき、話し合いの場を設け不安や疑問に対して十分な説明を行い理解をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご本人を交え、意見要望を聞き、運営推進会議にて外部者へも提示し検討する等、改善点についても改善に努めている。	営推進会議、家族会、家族の来訪時等に意見や要望を聞いている。家族の訪問が極めて多いのでお互いの理解が進み、親密な関係が出来ている。今回のアンケートでも100%の回答率、評価も高く、利用者、家族の満足した運営がなされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長や管理者が出席するミーティングを利用し、意見要望を聞いている。また会議以外でも個人的に意見や提案を聞く体制も出来ている。	法人の各事業所合同の会議、ホーム月例ミーティングや、日常会話を通じてこまめに職員の意見を聞き、運営に反映している。ホーム内は職員間のコミュニケーションも良く、施設長、各ユニットの管理者は職員の良き相談相手、指導役となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者とは、毎月の会議にて話し合いがもたれ、改善点があればその都度検討している。介護職員処遇改善交付金も最初から申請し支給されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修等へ積極的に参加し、会議にて内容の共有にも努めている。レベルアップの為、国家資格試験の受験を奨励している。内外の研修に対しては研修費が支給されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しており、ケアマネネットワーク会議に出席したり、定期的に同業者との勉強会等へ参加している。情報交換し質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には本人の要望・困っている事について、十分に話し合っている。初期の段階では日頃の様子を観察した上で、不安・要望に耳を傾け、寄り添いながら安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には家族から要望や困っている事を聞き、十分話し合いを行い信頼関係作りに努めている。 併設のデイサービスやサービス付き高齢者住宅からの入居者が多い為、家族は入居に対して不安が少ない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を伺い、職員間で十分検討した後、選択の機会を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人権を尊重しながら、職員も共に生活する事を意識しながら、日常生活の作業を共にを行い、信頼関係を築ける様、努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年、家族会を兼ねた遠足を企画し、多数の家族が参加している。また面談時にも、ご家族と良い時間を過ごせる様、配慮し支援している。 入居者、家族、職員三者の関係作りに努め、質の良い支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者が大切にされている知人や友人も気軽に来所されている。併設のデイサービス・サービス付き高齢者向け住宅にも知人が利用されており、自由に交流が持てる様支援している。	面会時間は制限が無く、家族等の来訪が多い。評価当日は家族・親族・知人等の面会が5～6家族あり、自由に各ユニットや利用者の居室へ出入しており、全職員は笑顔で挨拶・対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のより良い関係作りが出来る様、席の配置やレクリエーションに配慮している。 お互いの立場を尊重し、職員が間に入りさりげなく支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者との契約が終了しても、その後の関係を断ち切らない付き合いができるように、入院・退居後もお見舞いや訪問をしている。家族の相談にも十分にに応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活の延長となる様な支援が出来る様、個々にあった関わりを持ち、把握に努めている。 会議にて全職員が共有し、支援につなげている。	今までの生活歴や生活習慣を尊重し、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。利用者の様子が異なることに気づいた職員は業務日誌等に記録し、フロア会議で話し合い全職員で共有し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の人権を尊重しながら、今までの生活歴や生活環境に配慮している。 昔からの趣味である編み物、園芸等も取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムを考慮しながら、現状の生活状況を総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や連絡の際に本人の状況報告と共に、ケアについての意向や希望を話し合い、モニタリング結果についても介護計画には十分に反映されている。	家族の面会時に利用者の現状・課題等を話し合い、モニタリング結果を反映し、利用者・家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。面会に来られない家族へは電話で説明して理解を得てから計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況変化や気づき等がみられた際は、ケース記録や業務日誌へ記入しており、日々の申し送り時にも報告し、情報を共有している。又、定期的な会議にて検討し介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて、受診先を決めたり本人と家族と一緒に外出出来る様、対応し支援している。また、外食、墓参り、帰宅、外泊等の対応も支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティアの受入れや近隣の保育園児との交流のなかで楽しんでいる。又、消防士立会いによる避難訓練を実際に経験していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医を利用して本人及び家族と相談しながら健康維持に努めている。重度化した場合、往診に来てくれる等、継続した医療を受けられる協力関係を築いている。	全利用者は希望のかかりつけ医を受診している。家族が同行できない時は、家族と連携を図り職員が受診支援している。利用者の急変時等は常勤看護師へ伝え、医師の指示を得ている。また、必要に応じて往診に来てくれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師や併設のデイサービスの看護師に相談し、適切な受診や看護に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの作成や入院中は定期的に訪問し経過状況について説明を受けており、お見舞いやその後の状態把握に努めている。又、退院に向けてのカンファレンスには施設長と管理者が出席し、その後の支援に生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した際は、本人や家族と早い段階で話し合いを行い、かかりつけ医・施設の看護師及び介護職員と共に連携して支援に取り組んでいる。本人の人権を尊重しながら終末期ケアに努めている。	重度化した際は、家族と話し合いを重ね方針を共有している。当ホームは看取り経験があり、かかりつけ医・看護師・介護職員・家族が連携を図り、利用者の意思と権利を尊重しながら、最期までチームでケアに取り組む体制が整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えて、緊急時対応マニュアルがある。急変時対応に備えての内部・外部研修に加え、消防署での蘇生法(AED使用)や、応急手当の講習会にも参加し、実践力を身に付ける様努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防士立会いの避難訓練を実施しており、夜間想定・地震想定での訓練にも取り組んでいる。又、地域の方の協力が得られるように働きかけ協力体制づくりを心がけている。	年1回消防士立会の避難訓練、ホーム独自では火災、地震など、いろいろな場面を想定した避難訓練を三カ月毎に実施し、利用者が安全に避難できる方法を学んでいる。本年度は消防署本部とのホットラインが設置され通報体制が強化された。	地域で火災発生の際には、当ホームの防火水槽を提供することになっている。ホームの災害対策へ地域の方の協力が得られるような話し合いを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はプライバシー保護の内部及び外部の研修に参加し、理解している。一人ひとりの人格を尊重し信頼関係が損なわれない様、声掛けや態度に十分注意し対応に努めている。	職員はプライバシー保護の研修に参加し、理解を深めている。各利用者の個性、意見を大切に、ゆっくり傾聴し、言葉かけや対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活や誕生会、買い物等、本人の希望を伺い対応している。 本人の意見はゆっくり聞きながら、表現ができるように穏やかな姿勢で接している。また、表情等から読み取れるように努める。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活に合った暮らし方を把握し、本人の希望や生活のペースに配慮しながら満足感が得られるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や年間行事の際は、本人の希望を取り入れ、その人らしいおしゃれができるように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各自が自分で出来るお手伝いをして頂けるように配慮している。好みのおやつと一緒に作ったり、季節にあったメニューを皆で考え、それに沿った食事を提供し嫌いな物は希望を取り入れ代替したりと食事が楽しみなものになるよう工夫したりしている。又、外食の機会も設けている。	栄養士は献立作成と毎日旬の食材を購入し、調理専門の職員が食事を作っている。利用者の嗜好に配慮した、季節を感じる栄養バランスの良い食事が提供されている。利用者はできる範囲で職員と一緒に準備等を行い、全員で食卓を囲み食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、その日ごとの摂取量を把握し、記録用紙に記録し、共有し、一人一人の状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	肺炎の予防になる事も認識し、個々の状態に合わせ職員が、一人ひとりに磨き残しも含め対応し支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムを把握し、トイレへの誘導をしている。 本人の状態に応じて、パットやおむつを使い分ける等、自立に配慮した支援を行っている。	排泄チェック表を基に、個々の排泄リズムを把握し、時間排泄で、さりげない声かけにてトイレへ誘導している。一人歩行が難しい利用者へは手引歩行で、ゆっくりトイレへ誘導する等、自立に配慮した支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の便秘の原因に配慮した食材の利用、水分補給を心がけている。又、主治医と相談しながら対応している。 毎日リハビリ体操を実施し、散歩も取り入れ予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人の職員が着脱から入浴まで関わり、ゆっくり入浴していただける様、入浴剤を使用したり、本人の希望に沿った支援に努めている。 入居者の身体状況(重度化)に応じた支援に努めている。	主に午後から一人の職員が3~4人の入浴支援を行っている。一人週2~3回の入浴を基本としているが、希望すれば毎日でも入浴ができる。入浴を拒む利用者や身体状態が低下している利用者には2人体制で、気持ち良く入浴ができています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や体調により休息している。又、夜間に良眠できるよう温度や湿度の調整を行い、日中の活動にも工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医を受診する際、説明を受け状態を報告している。看護師より薬の目的や副作用について再確認を受け、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や嗜好に応じて、レクリエーションや外出、併設のデイサービスとの合同行事もあり、入居者の楽しみや気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との食事や外出等、普段から自由に外出できるよう支援している。又、本人の希望に沿った外食・買い物・墓参り等、外出が出来るよう工夫している。	家族等は気軽に来訪し、利用者と一緒に食事等へ出かけている。また個々の希望に沿い職員と一緒に散歩や買い物へ行っている。デイサービスの送迎バスを活用し、季節毎のお花見や外食等に出かけている。年1回の家族会旅行には多くの家族参加があり好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により、少額の所持金を持っている方もいる。外出の際の買い物は、できるだけ本人に財布を渡して使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが自由にできるように支援している。誕生日や敬老の日には、家族からのプレゼントも多く届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広く、天井も高い為開放的であり、リビングの明るさも蛍光灯の明るさも調節ができる。又、季節を感じられる飾りつけを入居者と職員が一緒に行っている。	広いリビングの壁面には、季節毎に利用者と職員で作成した作品や行事の写真が沢山掲示され、会話が弾む工夫がされている。また、一角にはソファが設置され、利用者は自由に寛ぎの場として活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファや長椅子、マッサージチェアが置かれており、気の合う入居者同士で過ごせるくつろぎの場となっている。天気の良い日には、テラスでくつろぐ事も出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使い慣れた物品が置かれていて、居心地よく馴染みの生活が継続できるよう工夫している。自宅でお守りされていた仏壇を居室に置いている方もいる。	手芸品を飾っている方、氷川きよしの写真を沢山貼っている方、動くぬいぐるみを置いている方、家族を偲ぶ仏壇を置いている方等、それぞれの好みを活かし、居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口に目印となる名前や好みの写真を貼り、できるだけ混乱を防ぐ工夫をしている。各室の洗面台は低位置に設置しており、利用しやすい環境となっている。		